



障害のある方の口腔内の特徴を知ろう！

～自閉スペクトラム症（ASD）の患者さんが来院したら～

障害のある方たちの歯と口腔の健康の保持・増進と歯科疾患の予防を図るためには、まずは医療者側が障害に対する理解を深め、個々に適した支援で長期的に関わることが重要です。

疾患による口腔内の特徴や歯科疾患のリスクは様々であり、障害のある方へはリスクに備えた支援が求められます。今回は「自閉スペクトラム症患者の口腔内の特徴と歯科的対応」について紹介します。

自閉スペクトラム症ってどんな疾患？

2013 年から虹のスペクトラムのように、さまざまな症状や障害の程度が連続性をもつという考え方で、「広汎性発達障害」や「Asperger 障害」なども包括され、**自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (autism spectrum disorder: ASD)**となりました。

人の顔の表情からその人の感情を読み取ることが苦手などの社会的コミュニケーション障害や、反復する様式の行動、趣味、活動が 3 歳までに認められます。

口腔内の特徴を知ろう！

自閉スペクトラム症には、特有の形態異常や歯列不正のような口腔所見はありません。しかし、個々の発達状況や疾患上の特性から、う蝕や歯周病のリスクが高くなる場合があります。また、疾患特性に由来する習癖や自傷行為により、口腔に影響を及ぼすケースも認められます。

1 口腔衛生管理困難

- ・「きれい」など抽象概念の理解が乏しく、セルフケアの動機づけが困難となりやすい
- ・感覚過敏や過去の嫌な経験がブラッシングの拒否につながりやすい

ブラッシング拒否
による重度歯周炎
(40 代男性)



2 口腔組織への自傷行為

- ・自傷行為として、頭や顔面を叩く、手を噛む、爪で引っ掻くなどの行動がみられる
- ・裂傷や歯肉退縮、歯の動揺、自己抜去などの症状を認める

爪で引っ掻く自傷行為
による歯肉退縮
(40 代男性)



3 こだわりや偏食によるう蝕

- ・ある一定の物へのこだわりや固執、感覚過敏により偏食や食生活の乱れが生じ、う蝕のリスクが高まる
- ・全顎的に白濁やう蝕を認める

清涼飲料水の常飲
による多数歯う蝕
(5 歳男児)



4 異食による口腔内への残留

- ・食べ物ではないものを口に入れてしまう行為（異食）は感覚障害のひとつとも考えられるが、刺激に対する快楽という解釈もある
- ・草や土、毛髪、紙類などが口腔内に残留していることがある

新聞やチラシの異食
(20 代女性)



何が得意で何が苦手なのか？

自閉スペクトラム症患者の特性として、描画、計算、記憶力などある特定の優れた能力を持つ反面、ストレスや理解できないことがあると、頭を打つ、手首を咬むなどの不適応行動を生じることがあります。また「痛い？」と聞くと「痛い」とそのまま言い返すような反響言語や、状況に関わらず同じ言葉やフレーズを繰り返すなど、コミュニケーションをとることが苦手な面もあります。

これらのさまざまな障害により診療時の協力が得られにくいですが、苦手なところを補いつつ、得意なことを生かせる方法で個々の患者さんに合った対応をしていきます。

得意

細かい部分に注目する
目で見て理解する
経験したことを正確に記憶する
興味のあることに対する集中力



苦手

全体を把握する
言葉で聞いて理解する
未経験のことを想像する
幅広くいろいろなことに興味を持つ

具体的な歯科的対応

歯科治療に適応できるとされている3歳以上の発達レベルであっても、言葉による指示だけでは状況を理解することが困難で、不安を抱きやすくなります。そのような場合に、TEACCHプログラム（言葉を補うコミュニケーション法）を応用し、あらかじめ実施することを、目に見える形でわかりやすく示すこと（視覚支援における構造化）で、スムーズな歯科診療へと繋げていきます。

【物理的構造化】

「どこで何をするのか」

- 物の配置によって場所や場面の意味をわかりやすくする
- 余計な視覚刺激を減らす



間仕切りカーテン

【スケジュールの構造化】

「いつ、何をするのか」

- 開始と終了の提示
- 実物、写真、絵、文字などで視覚的に示す



絵カードを用いた説明

【ワークシステム】

「何をどれくらいするのか」

- 所要時間や終了の目安の提示
- 数を数える、タイマー、リスト



終了した項目は箱へ入れる



今回は自閉スペクトラム症について紹介しました。

歯科診療は誰にとってもストレスが強かかります。治療中に言葉かけをすることや褒めることで達成感を与え、ストレスの緩和に努めるよう配慮しながら診療を進めていきましょう。また、痛みを訴えられないことがあるため、定期的に歯科受診を促し、口腔内管理を行っていくことを介助者にお勧めしていくことも大切です。

<参考文献> 日本障害者歯科学会：スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版.東京：医歯薬出版，2017.

*本文中の写真は「スペシャルニーズデンティストリーハンドブック」（東京都立心身障害者口腔保健センター，2015）より引用